

油屋町くんち瓦版

編集担当 山之内 宏一
写真提供 Saori 山田

平成28年10月7日 第7版

十月七日は「暑かった!」

起こしシャギリが響き、くんちが始まった

平成二十八年十月七日朝四時半、起こしシャギリが自治会長宅からスタートした。船頭は最後の網打ち練習。根曳たちはテ



ピングをして、本番にひんやりしていた。集まって来た。万全を期した。くんち集合時間六時前には出発の六時半前日、朝の空気は少し衣装を着た参加者が庫から出され、傘鉾を先頭の本場所道中の順番に整列が始まった。長采たちが船頭を連れて来た。いよいよ出発だ。

諏訪の朝日の中 川船の静と動 が観客を魅了

諏訪神社の下の休憩所で、少し休憩した後、入場口に向かう。踊場では今籠町の本踊りが披露されていた。先頭に傘鉾、後ろに町の役員、横に先曳きの子供と親が並ぶ。入場口までの坂をロープにつないで上げられた川船はその後ろに陣取った。町の世話人がまきものを役員や采、根曳、囃



子に配ったり、並びの順番を確認したりとバタバタ動いている。傘鉾が入った。始まった。町の役員がその後続く。傘鉾の演技が終わる、山下さん先頭に先曳きが入場した。その最後が踊場を出る頃、長采が踊場に登場、その後ろに川船が続く。川船の演技が始まった。囃子の奉納、網打ちの「静」。川船の走り回しの「動」。モツテコイの掛け声に答え、演技は約三十分で終了した。ロープで支えられながら、川船は諏訪神社の階段を降りた。この日は太陽が登ると日

差しが強く、湿度も高く、暑い一日だった。朝の公会堂では大太鼓が体調不良を訴えた。応急処置で、どうにか御旅所の奉納は無事に終わった。庭先も水分補給、囃子の頻繁な交代など、予期せぬことが起こり、混乱した。人数揃いで怪我をした大太鼓は体調を気遣いながらも、参加できた。よかった。午後八時頃、無事に前日が終わった

